

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200999		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホーム ジョイ西里		
所在地	静岡県清水区西里1460-1		
自己評価作成日	平成24年5月22日	評価結果市町村受理日	平成24年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 gokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200999&SCD=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成24年6月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしく、安心した暮らし、なじみの暮らし」を理念に、利用者一人一人の個性を大切に、信頼関係を築きながら尊厳と自信のある暮らしが継続できるよう、地域に根ざした暮らしができるよう支援している。
機能訓練、体操、畑仕事や家事仕事などを職員と共にし、ADLの低下を防いでいる。
毎月1回の外食が恒例であり、またその他にも外出の機会も設け、気分転換を図っている。季節の行事を多く取り入れ、施設の内外問わず利用者が楽しむことが出来るように努めている。
毎日の日課としている散歩では山々に囲まれた場所柄から、野草を摘むなど自然に触れ、川のせせらぎを聞くことができ、地域の特色として大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清水の中心部から興津川を上流にたどり黒川が落ち合う場所に事業所は位置しています。母体である建設会社によって、夏涼しく冬暖かい、1年を通して快適温度に保たれる工夫が成されています。特に、外内両断熱鉄筋コンクリートの構造は、ヒートショックによる健康障害から利用者を守っています。全居室が黒川側のリバーサイドビューに位置していて贅沢な自然の眺めを享受でき、ヒーリング効果とともに安心に繋がっているように映りました。散歩途中で利用者が摘んだ野ビルが食卓にのぼったり、入り口の菜園が利用者の主導で営まれるなど、利用者の今までの生活機能が活かされた取り組みがなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々のニーズに合わせ、また地域に馴染んで暮らしていけるよう理念を掲げ、実現に努めている。散歩や買物に出たり、地域のイベントなどに参加するなどして地域とのふれあいの機会を多くもてるよう意識している。	グループ共通の「その人らしく、安心した暮らし、なじみの暮らし」の理念が玄関に掲げられていません。理念に沿ってサービスが実践できるようにとの、各職員への意識付けが感じられました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区で開催されている夏祭りなど、季節を楽しめる行事や催しへ積極的に参加している。散歩でご近所の方々と挨拶を交わしたり、利用者と一緒に回覧板を持っていくなど地域との交流ができる機会を多くもてるよう努めている。	自治会に加入し、利用者と一緒に回覧板を近所に廻したり、散歩での挨拶等、日常の付き合いができています。地域の方の申し出で実現したピアノや大正琴演奏、またマッサージは好評で定例化しつつあります。また、中学生の職場体験も受入れ、認知症理解に繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターの会議や民生委員などの会合に参加し情報を交換し合っている。運営推進会議で認知症の講義を行うなど認知症に対する理解をより深めて頂けるよう努めている。地元の中学生の職場体験を積極的に受け入れ、若い世代にも理解を広められるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族・民生委員・包括支援センターに声をかけ、現状報告・運営方針説明を行い、質疑応答の中からサービス向上に結びつける意見を聞いている。実際に、会議での意見を元に宿泊サービス等の内容を変更した。	年2回と回数は少ないものの、民生委員、包括、家族の出席が得られ、議事録も作成しています。今後は出席者として地域の皆さんからも幅広い意見がもらえるよう準備を進めています。会議では地域性を考慮した意見がもたらえていて、実践に繋がっています。	開所1年での運営推進会議隔月開催はハードルが高く感じるかもしれませんが、地域や行政への呼びかけを早めにするなど、目標をもった取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に行政機関へ訪問を行い、情報交換を図っている。また開催される会議や講演等へ参加し、連絡を取り合っている。また内部の情報の公開にも努めている。	行政に出向いた場合、市の窓口に立ち寄ることを心掛けています。地域包括とは常に連絡が取り合える関係が構築されていて、情報提供や各種会合、研修会参加等に積極的な姿勢が見られます。	運営推進会議議事録は作成されていますが、今後、市担当者に直接議事録を届けるなど、更に連携が密になるような工夫が望まれます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの外部研修に参加し、内部研修において、その内容を周知徹底している。「身体拘束ゼロ宣言」を実施し、職員が同じ意識で取り組んでいる。	「身体拘束ゼロ宣言」して、夜間以外の施錠はしていません。月1回の会議では常に議題に挙げ、スピーチロックなどの事例を説明し、周知徹底を図っています。事故報告会議では、見守り方法の確立と利用者のパターン把握による行動予見に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加したり、内部研修を行い意識を高めている。事業所内でもお互いに注意しあうことで虐待につながらないような体制を整えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し学んでいる。また、内部研修を行い制度について学び、該当の利用者については、既に活用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必要事項は十分に説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用状況の報告書に、意見等を同封し、返送してもらうよう声かけしている。また、面会時にお話を伺っている。契約時には、公的窓口の紹介をしている。	毎月の便りでは利用状況や行事予定の他に、7月の様子やコメントが担当者から加えられています。家族からの返信欄には意見や感想もあり、職員の励みに繋がっています。家族が利用者の居室に泊まり、以前の暮らしの一部を回顧できた例もあり、家族の面会が多いことが確認できました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が常に職員と対話をする中で、意見や提案し易い環境作りをしている。また必要に応じて、会議の議題に挙げて話しあっている。	個別面談は年1回ですが、日常的に職員と話ができる雰囲気作りを管理者は心がけています。担当制では無いものの、野菜作り等職員の得意分野を活かした取り組みがなされています。職員会議ではリハパンから布パンにトライしたい意見も出され、その向上効果も見られました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各資格手当を設けており、随時昇給もしている。勤務が5日以上続かないように、また夜勤は職員の希望にもよるが週1回程度にするようになどの配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部の研修に参加するように促しており、研修内容に応じて、会社が必要と認めた場合、研修費用を負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の包括支援センターや地区社協の会合に参加し、情報交換をしている。同業他社と研修や勉強会等を通じて交流の機会を持っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时や面談時に、会話の機会を作りご本人から伺っている。可能であればショートステイを事前に利用してもらい、本人と話しをしたり様子を見る機会を作っている。ケアマネや以前利用した事業所などから幅広く情報を集めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	バックグラウンドアセスメントシートを事前に提出してもらい、本人や家族の求めている事を探る努力をしている。本人同様、見学や面談時にお話しを伺う機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所の利用だけにこだわらず、本人の為に良い支援方法をケアマネ等の意見も聞き検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の人格を尊重し、それぞれの役割を持って、互いに学び、支え合い、感謝する事を忘れず、家庭的な環境の下で日常生活が送れるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の1ヶ月の様子をホームたよりや利用状況報告書を作成して家族に送付している。その中で喜ばしい事柄や行動については、面会に来られた時などに話題としている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は24時間可能とし、家族や友人など誰でもいつでも訪ねてこられるよう配慮している。 外出・ドライブの際は、利用者で行きたい場所を決めたり、利用者の地元や地域の名所旧跡に行くなどしている。	会議での意見や利用者との会話から、ドライブを兼ねて河内の大石、身延山にも行きました。外食の機会もあり、また買い物では旧知の知人や店員と出会い昔話に花が咲くこともあります。24時間面会可能を謳っているのに、遅い仕事帰りに立寄る家族もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要があれば職員が利用者の間に入り、利用者同士が円滑に関係を持てるようにしている。 利用者の得意分野を生かし、それぞれが中心になることで相互に支え合う関係性を大切にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も関係性を保てるよう、必要な場合は連絡を取っている。入院した場合は、家族の様子を聞いたり、見舞いに行き実際に様子を見たりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に利用者の生活状況や趣味嗜好などをアセスメントシートに記入してもらい、さらに本人との会話や日常生活の中から経験などの把握に努めている。また表情や態度からも、本人の思いを汲み取るよう努めている。	食事の最中の細かな見守りに、希望や意向を汲み取りたいという姿勢が見て取れました。こうした利用者本位の積み重ねは、アセスメントシートに活かされる仕組みになっています。また、業務日誌には気づきを記録し、申し送りで職員が情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活や経験などを、家族・ケアマネ・利用した事業所など関りのある人から聞いている。また利用者本人からも聞くことでより多くの情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族からの情報提供や、本人との会話や、日常生活、健康状態を観察ながら検討し、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族と十分に話し合い、意見を聞いている。スタッフ会議で意見を出し合い、介護計画に反映させている。	担当の意見が十分反映される形で介護計画が作成されています。短期3ヶ月・長期計画6ヶ月で見直し、モニタリングは3ヶ月に2回行っています。管理者の、職員に早く計画作成に参画できるようにしてもらいたいとの思いは、職員からのケアプラン重視の姿勢からも汲み取れました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に概況を全て記録している。また、申し送りノートの他、出勤時に申し送りの時間を設け、情報の確実な伝達と共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じて通院や外出の介助をしている。 食事は好き嫌いや健康状態に適した献立にするなどの配慮をしている。法人内のデイサービスやヘルパーの利用も可能である。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報誌を配布してもらったり、お祭や運動会などのお知らせを頂き、行事等の参加を通じて、暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までかかっていた医療機関へ継続してかかっている。不可能な場合等は協力を求めている医療機関への受診を勧め、本人、家族の理解を得て受診している。	以前からのかかりつけ医を優先していますが、希望があれば近くの診療所である協力医に受診しています。総合病院受診時は職員の交通支援もあり、最近では受診支援の傾向が強くなっています。家族と職員が情報を共有できる仕組みがあり、また医療機関に届くよう図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同グループ内の看護職員と連携をとり、適時健康管理、医療支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこちらから、フェースシートを送ったり、口頭で説明をし、情報をできるだけ詳細に伝えるようにしている。また病院側からの相談にも即時に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後にターミナルケアの指針を説明し、本人・家族の方針を伺っている。利用者の身体状況に応じて、出来る限り対応できるように配慮している。	開所間もないため、看取りの実績はありません。重度化のマニュアルや指針はあり、入居後に説明がなされています。今後看取りの予定はないものの、看護師の定時訪問やグループ内看護師派遣も含め、研修等を重ねながら勉強をしたいと管理者は考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、日頃から急変、事故時の対応を話し合っている。また、応急手当、初期対応の訓練を時々行い、確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施している。自治会や近隣へGHの状況を説明し、災害時は避難誘導の協力をしてもらえよう依頼している。	年2回の防災訓練には地域住民の参加もあり、協力関係ができつつあります。机上訓練の域ですが、夜間想定訓練を近々予定しています。緊急連絡網が整い、飲用可の井戸も備え、3日分の備蓄食料があります。台風の折の停電を教訓にカセットコンロ、ランタンを用意し備えています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	例えば、下着の交換や食べこぼし等での着替えの際、他の利用者に気付かれないよう、さりげなく言葉かけや対応をするなど、個々を尊重している。	さん付けのハウスルールの徹底や、さりげない声掛け、また利用者間での「人に見られている」という尊厳の部分に気遣っていて、利用者的人格重視に繋がっています。接遇を外部研修で受け、職員会議で話し合い共有化に努めています。細かな部分の職員の声かけや対応に向上が認めました	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動や思いを制限する事なく、本人にお伺いをたてることで、決定権を本人に委ねている。命令ではなく、声かけ、本人に合わせた説明をして、強制はしない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活の流れは職員が声かけするが、時間配分などは、利用者本人に委ねている。外出や買い物等の希望を聞いて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせ、身だしなみや化粧の支援をしている。その日の気温や季節に合わない服装の時には、さりげなく声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞きながら決め、毎日一緒に買い物に行く。利用者と一緒に準備、片付けをし、食事は、スタッフを含め全員で楽しく自然な会話をもてるようにしている。	毎週のメニューづくりに利用者の希望を組み、毎日一緒に行く食材の買い物では相談しながら店内を回ったり、準備から下膳に至る協力や、味付けにもアドバイスを頼んだり、利用者の機能を引き出す工夫が見られました。体調や状態により特別メニューで個々に対応することもあります	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、それぞれの利用者に合わせた量をバランスよく提供し、摂取量を記録している。体調不良などで食事が少ない時は栄養補助食品などを提供している。水分も随時提供し、量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、歯磨きの声掛けをし、自分でできる方は見守り、難しい方は職員が支援しながら行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表をもとに一人ひとりの排泄パターンを把握している。その人に適した下着の提案をすると共に、時間毎のトイレ誘導で、なるべくトイレで排泄できるような支援を行っている。	排泄管理表によるパターンを全員が共有し時間誘導で対応しています。3時間間隔の定時誘導を2時間に縮めてリハパンから布パンに改善した例もあり、自立に向けた支援の工夫が受けとめられます。夜間は定時声かけ誘導か睡眠優先かで個別に対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維質の食物や乳製品を多く摂るように心がけている。散歩や買い物等で、日常的に身体を動かす機会を設けるなど、なるべく下剤に頼らずに排便できるような支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに午後の時間帯の中で、希望の入浴時間に利用できるようにしている。さりげない声かけでお誘いし、個浴でゆっくり入浴する事ができる。	午後の時間帯の中で希望する時間に隔日でマンツーマン介助入浴ができています。湯の張替えは個別に行われ、足拭きマットも都度交換するなど清潔保持と皮膚感染対策に力が入っています。体調に配慮しつつも出来る限りあがりの声掛けをしないで、自由でゆったりとした個浴を心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間気持ちよく眠れるように、日中はなるべく活動的に過ごすようにしている。また体調、症状などに合わせて、居室で休息をとるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとの処方内容の説明書を控え、すぐに確認できるようにしている。用法用量、誰が服薬をしたかは、一覧表で確認できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族に伺った生活歴を参考に、一人一人に合った役割(食器拭きや掃除など)を行ってもらい、張り合いを持って生活できるよう支援している。またそれが楽しみとなるよう、無理強いはいないようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望を聞いて買い物に出かけたり、会話の中から行き先を決め、散歩やドライブも日常的に出かけている。	理髪や美容へは自発的に希望する利用者もいて、また買い物の支払を自分でする利用者もいます。月に1度の外食では回転寿司や中華、蕎麦、ファミレスにも出かけ、「自分たちより多いね」と家族から羨む声も聞かれています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能であると判断できる利用者には、家族の了承を得た上で本人が管理している。また、スタッフ管理の元で、利用者ごとに財布を持ち、買い物や外出時には自分で好きなものが買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望した場合は、ご家族の承諾の下、対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓は大きく、光を多く取り入れるよう設計されている。また天井には天窓を使用し、浴室も自然の光が入るようにしてある。手すりなどを最小限に抑え、木目調を主体とした落ち着いた雰囲気になっている。	天窓や大きな窓があり、自然光を取り入れる工夫があります。また、川面を見下ろすベランダのデッキでは社会見学の中学生とパーベキューをした楽しい思い出もあり、もっか朝顔のグリーンカーテンを育成中です。次亜塩素酸を気化させて消毒殺菌も行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際は席を決めているが、普段はお話の合う利用者同士、思い思いの席で自由に過ごすことができる。リビングにはソファを用意し、よりゆったり過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは利用者が使用していた馴染みの物を持ち込んでいる。家族の写真を貼ったり仏壇を置いたり自由に居室を使ってもらい、自宅と同じような居住空間を作ることで居心地良く過ごせるように支援している。	エアコンは備え付けで、家具、寝具、防災カーテン等は使い慣れたものを持ち込み居心地を楽しんでいることが伝わってきます。掃除換気は毎日、蒲団の天日干しやシーツ取替えは、毎日1室のローテーションを組み衛生管理に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名前や、トイレなどの表示を出し、行きたい場所に迷わず行くことができるような配慮をしている。利用者が安全に歩けるよう、フロアはバリアフリーになっており、廊下には手すりをつけ、一人でも安全に歩行ができるようにしている。		